様式３

学校番号 90

令和４年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立嘉穂総合高等学校（大隈城山校）

自己評価

学校運営計画（４月）			評価（総合）
学校運営方針	総合的で活力ある教育を、情報を基調とする家庭に関する学科において展開することにより、高度情報通信ネットワーク社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成する。また、勤労と責任を重んじ、社会の有意義な形成者となり得る資質を、地域と連携し育成する。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
＜成果＞ 1 基礎学力の定着と人間性・社会性を向上させる教育活動を計画的に実践できた。 2 基本的生活習慣を確立し、規範意識を高め、地域社会に貢献できる生徒の育成に取り組んだ。また、特別支援教育を念頭に、個に応じた生徒・教科・進路指導の充実を図ることができた。 3　生徒の進路保障に向けて適切な勤労観や職業観の育成と関係機関との連携強化を図り、就職内定100%を達成することができた。 ＜課題＞ 1 新学習指導要領に対応した授業改善と観点別評価による指導と評価の一体化 2「学び直し」と確かな学力の育成、個別最適な学びに向けたＩＣＴ機器の活用の充実 3 個別の教育支援計画に基づいた個に応じた指導と教育相談等の充実 4 嘉麻市との連携強化と地域ボランティア活動への参加促進と、地域に愛される学校づくり、人づくり	（１）基本的な生活習慣の確立と規範意識育成	・自尊感情の向上と「より良く生きる」という意識の涵養 ・保護者との連絡と緊密な連携による出席状況の改善 ・心身ともに健康な生徒と規範意識の育成	
	（２）生徒の実態に応じた魅力ある授業の構築 （個に応じた授業、ICT機器の活用、確かな学力の育成）	・生徒一人一人の個性の把握と、合理的配慮の下での個別の指導目標に基づいた能力の伸張 ・「主体的・対話的で深い学び」の学習指導法についての研究・研修の実施 ・「わかる授業」のための授業改善とICT機器の活用 ・観点別評価による指導と評価の一体化	
	（３）人権尊重の精神に基づく、いじめを生まない教育環境の構築 （いじめの撲滅）	・人権尊重を基盤に捉えた教育活動の推進と道徳心の涵養 ・ほめる指導を推進し、自己有用感及び自他共に人権を大切にする心の育成 ・安全で安心な学習環境づくり ・人権意識の定着といじめを許さない雰囲気の醸成	
	（４）特別支援教育の充実と研修	・教育活動のユニバーサルデザイン化の構築 ・生徒一人一人が学びやすい環境づくりの推進 ・特別支援の視点に立った学校環境の整備と充実	
	（５）一人一人の生徒のキャリア形成と第一希望進路の実現	・インターンシップの実施と職業観や勤労意欲の育成 ・卒業までに生徒に身に付けさせるべき能力・技能習得の計画的実践	
	（６）広報活動の充実	・積極的な広報活動の実施 ・地域でのボランティア活動への積極的な参加による地域との連携強化	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（３月）			次年度の主な課題
教務部	基礎的・基本的な学力の定着を図る。	自ら学習に取り組み、落ち着いた授業環境を定着させるため、朝読書を活用する。	B	B	A	・学校生活のスタートを落ち着いたものにするために朝読書の習慣は有効だった。生徒が自主的に朝読書に取り組むことができるよう、目的意識を持たせる取組を行う。 ・生徒の学力差が大きいため、次年度も学び直しの内容を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。 ・ICTの活用が進み、生徒各自の特性に応じた指導ができたが、次年度は更なる授業改善と基礎学力の定着を目指す授業研修、ICT活用研修を設定する。 ・年間学習指導計画の活用により評価の観点の明確化を推進し、生徒の意欲向上につなげる。
		学び直しの学習を取り入れ、基礎学力の定着を図る。	B			
	生徒の学習意欲を高める授業の構築を行う。	生徒一人一人に整備されたタブレット端末や電子黒板の積極的に活用した、魅力ある授業づくりに努める。	A	A		
		観点別評価を確立することで、毎日の授業に意欲的に取り組む生徒を育成する。	B			
	生徒の実態に即した授業内容の構築を行う。	職員間の連携を密にし、合理的配慮の必要な生徒の指導法を共有する。	A	A		
		個別の指導計画に基づいた、生徒の実態に合った教科指導を行う。	A			
進路指導部	社会人として必要な職業観や勤労意欲の向上を目指す。	インターンシップやボランティア活動を実施することで勤労意欲の向上を図る。	A	A	B	・外部との連携により、生徒が地域社会に目を向け、勤労意欲を向上させることができた。進学ガイダンスは年間３回実施。充実した内容だった。 ・２年生はインターンシップ、３年生は応募前職場見学を行い、就労に関する効果的なキャリア教育ができた。次年度は1年生対象に地域の工場見学を実施する。 ・キャリアノートについては、担任へのガイダンスを行い、活用の定着を図る。 ・本年度は、進路希望を急に変更する３年生が多かった。次年度は、早期に保護者の進路に関する意識調査を行うことで生徒の背景を知り、家庭との連携を密にする。
		企業の現場が見学できる応募前職場見学を積極的に実施する。	A			
	進路意識向上に効果的なキャリア教育を実施する。	企業見学や専門学校訪問を実施することで具体的な進路目標を持たせる。	A	B		
		キャリアノートを活用し、生徒自身に毎日の学びや自らの成長を振り返らせる。	B			
	生徒の適性に応じた進路実現を目指す。	基礎力診断テスト、適性検査を実施し、生徒の能力や適性を客観的に判断する。	B	B		
		担任や特別支援コーディネーターと連携を深め、生徒の特性に応じた進路選択を行う。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A　：　適切である B　：　概ね適切である C　：　やや適切である D　：　不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	生徒の学習の到達度や各自の特性に応じて、個に応じた授業が展開できている。 学習者用端末の効果的な活用により、さらに授業改善を進めてほしい。
A	生徒の個性や特性に応じたキャリア教育が展開されており、生徒・保護者が安心して進路選択ができる環境が整っている。 今後も、家庭との連携を一層心がけてほしい。

生徒指導部	生徒が伸び伸びと安心して学校生活を送れる学校づくりを目指す。	個人面談や教育相談、家庭訪問や三者面談等を通して生徒理解に努める。	A	A	A	・安全で安心した学校生活が送れるように個人面談・教育相談等を実施し、迅速かつスムーズに対応できた。次年度は、さらに効果的な時期における実施を検討する。 ・さまざまなボランティア活動を通じて、地域との交流が促進できた。今年度は、嘉麻市産業振興課を通じて国際交流員を派遣していただき、生徒との交流会を実施できた。次年度は、隣接する「嘉穂らいむ保育園」と通年での交流を企画する。 ・生徒会活動は、全校朝礼がうまく機能せず、生徒会活動が不十分だった。来年度は、定期的に全校朝礼を実施し、生徒会活動を活性化させる。	A	地域社会と連携し、多様なボランティア活動を行っている。生徒の社会性を高めるのに有効な取組であり、地域の世代間交流にも繋がるため、今後も継続してほしい。 次年度は、生徒会活動も充実させてほしい。
		アンケート調査・相談ポスト・校内巡視等によって、生徒の抱える悩みに早期に対応する。	A					
	生徒会活動を通して自主的・計画的に行動できる資質を養いリーダーを育成する。	全校朝礼の司会・運営、月1回の清掃活動を実施して、学校や地域への帰属意識を高める。	B	B				
		行事ごとに生徒からのアイデアを１つ以上反映させ、学校行事への参加意識を高める。	A					
	地域社会と連携してボランティア活動を推進し、地域の活性化に寄与する。	一夜城祭り・遠賀川浄化活動・ふるさと探検隊・千手とうろう祭りに積極的に参加する。	A	A				
		嘉麻市が主催するボランティア活動への参加を奨励し、ボランディアマインドを育成する。	A					
保健部	生徒が心身共に健康的な学校生活が送れるようにサポートする。	「命の大切さ」をテーマに講演会を計画・実施し、自他の人権尊重の精神を育成する。	A	A	A	・支援を必要とする生徒達に個別の教育支援計画・個別の指導計画を立てて支援・サポートすることができた。次年度は、生徒情報交換会で早期から検討を行い、支援の充実を図る。 ・SSW・SC・通級の先生方と連絡・連携を密にすることができた。次年度も、生徒の様子等を観察しながら、計画的かつ有効な実施を推進する。 ・毎朝の健康観察を実施し、心身共に安心して安全に学校生活が送れるように指導・支援した。次年度も、生徒の問題の早期発見に繋げていく。	A	個別の教育支援計画や個別の指導計画の定期的な見直しが行われ、職員全体で内容が共有できている。今後も、生徒の課題の早期発見に努め、一人一人に寄り添った指導を継続してほしい。
		毎朝の健康観察を実施し、心身の両面から生徒の状況把握と問題解決に向けての支援をする。	A					
	教育相談を充実させ、支援を必要とする生徒に適切な対応を行う。	心の健康相談・教育相談を定期的に行い、情報の共有に努め、対応を協議し、必要な支援をする。	B	A				
		生徒情報交換会およびいじめ防止対策委員会との相互連携を図り有効な支援をする。	A					
	特性ある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	ＳＣ・ＳＳＷ等の関係機関と連携をとりながら、個性や特性にあわせた支援を考え活用する。	A	A				
		サポートヒントシート等を活用し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を参考に生徒支援をする。	A					
研修部	校内職員研修を実施し様々な教育活動の局面における生徒への支援体制を強化する。	生徒の適性検査分析・特性のある生徒への対処法等の職員研修を企画・実施する。	A	A	A	・生徒の適性検査分析の報告会及びＩＣＴ機器を活用した授業構築のための職員研修の充実を図ることができた。 ・救急救命士を招聘しての救命講習も5年ぶりに実施できた。 ・次年度は、研究授業や相互授業参観、ICT活用等、授業改善に関する校内研修の充実を図る。また、人権教育、生徒指導、特別支援教育に関する研修会のいずれかを外部講師を招いて実施したい。	A	今後もＩＣＴに関する研修の充実を図り、教育活動を充実させてほしい。
		ＩＣＴ機器を活用した生徒主体の授業を構築するための職員研修を企画・実施する。	A					
	校外研修に積極的に参加し、研究成果を職員間で共有し、教員としての資質向上を図る。	特別支援教育の校外研修に参加し特性のある生徒に対応できる教育力を養成する。	B	B				
		特別な配慮が必要と思われる生徒支援のため巡回指導員による行動観察を行う。	B					
	生徒対象の「人権学習会」を各学年３回実施し、生徒の人権意識の高揚を図る。	「人権学習会」の事前学習会を実施し生徒の実態に応じた学習会の在り方を模索する。	A	A				
		生徒が意欲的に学習会に参加できる雰囲気を作り、生徒主体の学習会の構築を目指す。	A					
1学年	基本的生活習慣の確立や規律・マナーの定着を目指し、社会に適応できる資質・能力を育成する。	体調管理を意識させ、欠席・遅刻等への早期対応に向け、家庭との情報交換を密に行う。	B	A	A	・多くの生徒が高校生活に順応し、落ち着いて授業や諸活動に取り組むことができた。一方で、高校生活への適応が難しい生徒もいた。基本的な生活習慣の定着を目指し、家庭と連携して指導を継続する。 ・挨拶や規範意識の向上に努め、集団生活が円滑に進むよう一層指導に努める。 ・インターンシップ等を通して進路意識向上に努める。	A	コロナ禍だからこそ、挨拶の習慣化の意義は大きいと思う。 基本的生活習慣は社会でも重要であるため、今後もその確立に努めてほしい。 インターンシップの充実が図れるとよいと思う。
		挨拶・返事・敬語の使用等を励行させ、社会生活における規範の遵守を意識させる。	A					
	1年次より進路目標の設定を目指し、進路選択に必要な情報を提供する。	早期の進路目標の成立に向け、日常生活の中で進路実現に向けた力量・資質を養わせる。	A	A				
		進路ガイダンスやインターンシップ等を通して、進路選択に対する意識付けを行う。	A					
2学年	人間関係形成能力・社会性能力を身につけさせる。	集団生活におけるマナーや他者への気遣いなど周囲の状況から的確に自らの行動をとれるよう指導を行う。	A	A	A	・次年度に向けて、就職試験の履歴書作成及び入学試験の小論文対策として、学校行事の度に感想文を書かせ、文章を書くことに慣れさせた。 ・面接試験対策として、終礼の司会を生徒に任せ、その日に学んだことを発表させることにより、人前で話すことに慣れさせた。次年度も踏襲したい。	A	「書く」活動の充実は、生徒の考える力の向上に繋がる効果的な取組だと考える。 社会人としての心構えや礼儀・マナー等を身に付けさせ、進路実現を目指してほしい。
		ボランティア活動に積極的に参加させ、奉仕の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を図る。	A					
	基本的生活習慣に基づいた自己管理能力の育成を行う。	授業や学校を休まない雰囲気づくりに努め、年間皆勤者１０名以上を目標とし、達成できるように指導を行う。	B	B				
		コロナ禍において、他者の立場を考えた言動をとり、かつ自分の言動に責任を持つことができるようにさせる。	A					
3学年	自らの進路実現のために努力を惜しまずに行動し、社会人としての基礎力を定着させる。	進路に関する情報は常に職員間で共有し、職場見学・履歴書指導・面接指導など計画的に行っていく。	B	B	B	・学校行事やボランティアではクラスで協力して活動し、学校全体も動かすことができた。 ・進路実現に向けてはあまり計画的に進まなかったように感じる。早い時期からの職場見学、計画的な面接指導を行っていく。	A	生徒の進路選択の幅が広がるような計画的な取組を充実させることを期待する。
		福祉的就労を希望する生徒へは、各関係機関と連携を図り、実習などのアセスメントを基に進路指導を行う。	A					
	学校や地域のために、最高学年としてのリーダーシップを発揮して全校生徒を動かす。	学校行事やボランティア活動においてリーダーシップを発揮しつつ率先して行動し、下級生の模範となる生徒を育成する。	A	A				
		学校行事やボランティア活動を通じて、仲間と協働して目標を達成する力を養う。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・基本的生活習慣の確立による出席状況の改善と、ＩＣＴの有効活用による確かな学力の育成
・体験型を重視した低学年からの計画的キャリア教育の実施
・豊かで逞しい心を育むための積極的生徒指導（ＳＥＬ－８Ｃプログラム導入）と教育相談等の充実
・学習成果を生かした学校行事の充実と生徒会活動の活性化による生徒の自主性の育成
・地域の世代間交流、地域活性化に繋がるボランティア活動の推進

評価項目以外のものに関する意見
登下校時の生徒のマナーも良い。今後も指導を継続してほしい。